

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

| 学年 | ページ | 科目名 |
|----|-----|-----------|
| 1年 | 44 | 基礎看護技術Ⅳ |
| 2年 | 66 | 保健医療福祉行政論 |

| 学修成果 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 科目ナンバリング | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|-------|--|-----------------|-------|-----------------------------------|-------|------|
| | 人間基盤力 | 連携協働力 | 専門実践力 | 学術探究力 | 課題解決力 | NSMa07 | | | | |
| | | | ● | | ● | | | | | |
| 科目名 | 基礎看護技術Ⅳ | | | | 単位認定者 | 佐藤 由記子 佐藤 清湖 | | 試験（筆記） | 60 % | |
| 対象学科 必修・選択 配当年次 | 看護学科 | 必修 | 1年 | 開講時期 | 後期 | 単位数 | 2 単位 | 評価の方法 | 授業内課題 | 40 % |
| | | | | | 授業形態 | 演習 | 授業時間数 | | 60 時間 | |
| | | | | 授業回数 | | 30 回 | | | | |
| 授業の概要 | 診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術（採血・検体検査）を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学修者への期待等 | 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。 | | | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | | 準備学修 | | | 担当 | | |
| 1 | 排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置（一時的導尿・持続的導尿）」 | | | | 教科書② 第2部6章を読む（1時間） | | | 竹田 理恵 | | |
| 2 | 排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置（浣腸・摘便・ストーマケア）」 | | | | | | | 竹田 理恵 | | |
| 3 | 排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」：グループワーク | | | | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分） | | | 竹田 理恵 二口 尚美 | | |
| 4 | 排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」：グループワーク | | | | | | | 佐藤 由記子 佐藤 清湖 | | |
| 5 | 呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、巻法、末梢循環促進ケア」 | | | | 教科書② 第3部11章を読む（30分） | | | 佐藤 清湖 | | |
| 6 | 呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」 | | | | 教科書② 第3部10章を読む（30分） | | | 佐藤 清湖 | | |
| 7 | 呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク | | | | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分） | | | 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 | | |
| 8 | 創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」 | | | | | | | 教科書② 第4部12章を読む（1時間） | | |
| 9 | 創傷管理技術 「褥瘡予防」 | | | | 佐藤 由記子 | | | | | |
| 10 | 創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク | | | | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分） | | | 佐藤 由記子 二口 尚美 | | |
| 11 | 創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク | | | | | | | 竹田 理恵 佐藤 清湖 | | |
| 12 | 与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」 | | | | 教科書② 第4部13章を読む（1時間） | | | 佐藤 由記子 | | |
| 13 | 与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」 | | | | | | | 佐藤 由記子 | | |
| 14 | 与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」 | | | | 教科書② 第4部13章を読む（30分） | | | 佐藤 清湖 | | |

| 回 | 授業計画 | 準備学修 | 担当 |
|------|--|--|-----------------------------------|
| 15 | 注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分） | 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 |
| 16 | 注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク | | |
| 17 | 与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」 | 教科書② 第4部13章を読む（30分） | 佐藤 清湖 |
| 18 | 筋肉内注射の実際：グループワーク | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分） | 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 |
| 19 | 筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク | | |
| 20 | 与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」 | 教科書② 第4部13章を読む（30分） | 佐藤 由記子 |
| 21 | 点滴静脈内注射の実際：グループワーク | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分） | 佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖 |
| 22 | 点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク | | |
| 23 | 与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」 | 教科書② 第4部13章を読む（30分） | 二口 尚美 |
| 24 | 症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」 | 教科書② 第4部14章を読む（30分） | 二口 尚美 |
| 25 | 静脈血採血の実際：グループワーク | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分） | 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 |
| 26 | 静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク | | |
| 27 | 症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」 | 教科書② 第4部14章を読む（1時間） | 二口 尚美 |
| 28 | 診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」 | | |
| 29 | 状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション | 講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（1時間） | 佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 |
| 30 | 状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション | | |
| 教科書 | ①『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 | | |
| 参考文献 | 『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア | | |
| 備考 | *非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、江口美知子、 浜野圭 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、確認テスト（15%）、演習レポート課題（25%）で評価し、次回授業時等にフィードバックする。 | | |

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

| |
|--|
| |
|--|

| 学修成果 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 科目ナンバリング | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|-------|------------------------------|----------|-------|-------|--------|-------|
| | 人間基盤力 | 連携協働力 | 専門実践力 | 学術探究力 | 課題解決力 | NSFc04 | | | | |
| | | ● | ● | | ● | | | | | |
| 科目名 | 保健医療福祉行政論 | | | | 単位認定者 | 末永 カツ子 | | 評価の方法 | 授業内課題 | 100 % |
| 対象学科 必修・選択 配当年次 | 看護学科 | 必修 | 2年 | 開講時期 | 後期 | 単位数 | 2 単位 | | | |
| | | | | | 授業形態 | 講義 | 授業時間数 | | 30 時間 | |
| | | | | | | | 授業回数 | 15 回 | | |
| 授業の概要 | 保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価について、人々の生活を支える保健医療福祉サービスの変遷、保健医療福祉制度の概要を学ぶ。また、人々の健康に影響する社会問題を解決するために、健康と生活環境との関連に係る疫学調査等の知見に基づき、政策を形成する過程について学修する。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 保健・医療・介護・福祉に関連する主要な制度と規制法について説明できる。 2. 保健医療福祉における行政・財政のしくみの概要について説明できる。 3. 保健医療福祉制度・政策が形成される基本的なプロセスを説明できる。 | | | | | | | | | |
| 学修者への期待等 | ・看護の視点や問題意識を持って、保健・医療・介護・福祉制度の全体像を理解する。 ・地域の健康課題に取り組む保健医療福祉専門職の実践事例から看護職の役割を理解する。 | | | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | | 準備学修 | | | | 担当 | |
| 1 | さまざまな指標でみる医療・福祉の現状と課題 | | | | 授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 2 | 医療制度（診療報酬制度）の概要と実際 | | | | 教科書p56-63を読む。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 3 | 医療保険制度の概要と実際 | | | | 教科書p56-63を読み、授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 4 | 介護保険制度のしくみと課題 | | | | 教科書p63-71を読み、授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 5 | 公共性の高い医療と行政機関の責任 | | | | 授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 6 | 保健医療福祉行政の歴史と変遷 | | | | 教科書p19-55を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 7 | 保健医療福祉行政の法的基盤としくみ | | | | 教科書p2-18.72-75を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 8 | 社会保障制度の理念としくみ | | | | 教科書p75-80を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 9 | 地域保健と社会福祉制度の概要 | | | | 教科書p81-91を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 10 | 保健医療福祉行政の専門職に期待される役割と課題 | | | | 授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 11 | 保健・医療・福祉の関係者と地域住民との連携 | | | | 授業資料を予習する。(30分) | | | | 佐藤 英仁 | |
| 12 | 保健医療福祉の計画のプロセス・実施・評価 | | | | 教科書p93-105を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 13 | 保健医療福祉政策形成のプロセスと方法 | | | | 教科書p140-195を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 14 | 保健医療福祉行政における個別支援の事例検討 | | | | 教科書p218-228を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 15 | 保健医療福祉行政における施策化の事例検討 | | | | 教科書p241-269を読む。(30分) | | | | 末永 カツ子 | |
| 教科書 | 『これからの保健医療福祉行政論 法・制度としくみ／施策化・政策形成／地域づくり』 星旦二他編、日本看護協会出版会 | | | | | | | | | |
| 参考文献 | 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障[3] 社会保障・社会福祉』 福田素生著、医学書院 | | | | | | | | | |
| 備考 | 講義では、グループ・ペアワークやプレゼンテーション、クイズや小テスト等を取り入れる。 事例検討では、講義内容の理解を深めるために保健医療福祉の現場で活動している専門職(GS)による講義を行う。 授業評価は、授業内課題を提示し（小テスト50%、授業後の感想50%）、その結果で評価する。 授業内課題は適宜フィードバックする。 | | | | | | | | | |

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

| |
|--|
| |
|--|